



## 外国出張報告書

平成 27 年 2 月 18 日

1. 出張国名           モザンビーク
2. 出張月            平成 27 年 1 月～2 月
3. 出張目的           モザンビークにおける畜産発展のための F S 調査：D

#### 4. 成果の概要

モザンビークには 170 万頭の牛 400 万頭のめん山羊が飼養されているがその多くが南部におり、北部は草資源が豊富であるにも関わらず牛の飼養農家が散在しており飼養頭数も少ない状態である。この原因としてはツエツエバエに由来する疾病、指導者不足が考えられる。南部、北部とも共通的な課題としては衛生管理の向上、家畜改良・繁殖技術の向上、乾季の飼料の確保、加工、流通も含めた乳用牛飼養の増加であった。大豆粕、ヒマワリ粕、ビール粕、ビール酵母などの副産物の利活用が考えられるがこれらの多くが南アフリカに輸出され、家畜飼養に用いられており、その肉がモザンビークに輸出されている模様であった。また、ブラキヤリア等の導入も始まっているが今後活用範囲を広げることにも乾季の飼料対策となりうるということが推測された。今後の JIRCAS との共同研究のシーズとしては IIAM 動物研究部と上記の乾季の飼料対策、乳牛の飼養管理方法が中心になるものと考えられるが IIAM 動物部は人材、機材とも充分ではないが機材の導入、人材の教育を行うことによって対応が可能になると考えられた。